

シリーズ「きょうだいの思い」⑨

二才違いの弟と私は、小学校で四年間、中学校で一年間、学校生活を共にした。

弟が同じ学校に通うことを、苦痛に感じたり窮屈に感じたりしたことはない。少し嫌な想いは経験したけれど、それは今まで書いてきたように、私の心の中でちゃんと整理できている。

学校生活を送る中で、いろんな場面があった。授業中に窓の外を見ると、弟も授業中のはずが運動場で走りまわっていたことがあった。

運動会の競技では、争いの観点がない弟がフラフラのんびり走り終えるまで、運動会の流れが止まることもあった。

全校集会の時に、弟がウロウロして目立つこともあった。

狭い家に、弟の同級生達が10人近く遊びに来て、私の居場所がないこともあった。押し入れを開けると男の子が隠れていてびっくりしたこともある(笑)

でも、これらのことが嫌だったという記憶はない。

『地域の学校で共に過ごす』

弟と同じ学校で過ごして、私は弟の存在を隠しようがなかったおかげで、オープンになれた。

小学校3～4年の担任だった先生との出逢いも大きかった。

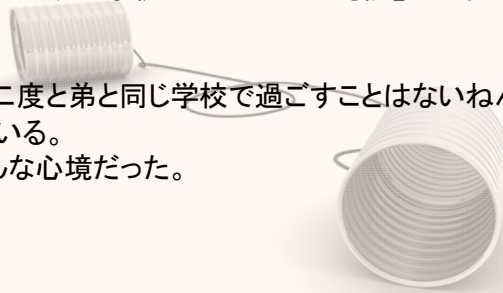
3年生での『あさがおオシッコ事件』の先生の言葉、そして4年生では、弟のことを書いた私の作文をテーマにして、各クラスで授業になったこと...これらのことがその後の私に大きく影響している。

先生は、この2年間で『障害児のきょうだい』の私を見事に教育してくれた。今思えば、先生にとって『障害児と同じ学校に通うきょうだい』は、私が初めてだったのかも知れない。

義務教育を終えてから30年近くなった現在、同級生とバツリ再会することが多い。特に小学校から一緒だった同級生達は、男女問わずに「弟、元気？」と訊ねてくれる。

「弟が自転車で走ってる姿をよく見かけるで」と、何年・何十年ぶりに私に会って、こうした言葉をかけてくれると、弟と地域の学校で共に過ごした『証』のように思えて、純粹に嬉しい。

私が中学を卒業する時に「もう二度と弟と同じ学校で過ごすことはないねんなあ」と寂しさがあったのを覚えている。別々の道を歩いていくような、そんな心境だった。



前穂通信

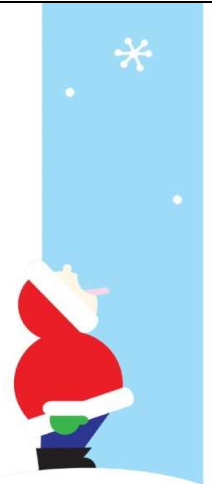
まええほつうしん

発行日

2011年12月1日

発行元

自立センター前穂
〒569-1022
高槻市日吉台
1番町21-18
072-689-8600



年末年始のご案内

2011年も沢山のご利用を頂き、誠にありがとうございました！

年末・年始、例年通り下記の日程にさせていただきます。宜しくお願い致します

ショートステイ		ガイドヘルプ・ホームヘルプ	
年内最終ご宿泊日	～12月29日(木)	最終日	12月29日(木)
終了日時	12月30日(金) 昼食前のお送り迄	開始日	1月4日(水)
開始日時	1月4日(水) 午後のお迎えから		
年始初日ご宿泊日	1月4日(水)～		

※但し、最終日・開始日共に人員等の限りがございますので、ご希望に添えない場合はご容赦の程、宜しくお願い申し上げます。